



環境市民会議 VOL. 44 ちがさきエコワーク通信

編集:環境市民会議「ちがさきエコワーク」広報委員会
発行:環境市民会議「ちがさきエコワーク」
発行日:平成 26 年 7 月 30 日
事務局:茅ヶ崎市環境政策課
TEL 0467-82-1111 FAX 0467-57-8388

環境市民会議「ちがさきエコワーク」は持続可能な循環型社会の構築と茅ヶ崎市環境基本計画の効率的推進のため、市民・事業者・行政が協働で、環境の保全と創造に関する取り組みや環境意識の啓発・高揚のための活動を行なっている市民団体です。

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankyo/torikumi/shiminkaigi/index.html>

「ちがさき環境フェア 2014」を振り返って

ちがさき環境フェア 2014 企画実行委員長
環境政策課長 後藤 淳一郎

今年は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の総会が日本で初めて 3 月に横浜で開催されました。今回の報告書には開催前より地球温暖化の深刻な影響が盛り込まれることが見込まれ、県内でも講演会やシンポジウムが開催され、地球温暖化への関心の高まりが強く感じられました。次世代エネルギーをテーマとしたある会場では、隣席の大学生が、自分たちが確実に生きている時代のことを考えるシンポジウムに、同世代の参加者がいないことを嘆いていたことが印象的でした。今回公表された報告書では、このまま温室効果ガスの排出が続くと、世界的な食糧不足や生態系の損失など深刻な状況になっていくというもので、海面上昇や高潮による沿岸部の被害、干ばつなどによる食糧供給システムの崩壊など 8 つの主要なリスク分野を挙げ影響を予測しています。

本市で開催している環境フェアは生物多様性の保全とともに、地球温暖化をテーマにしています。生物多様性の保全については、次世代に残す必要のある本市の貴重な自然環境の紹介や保全に取り組む様々な団体の活動を紹介しています。地球温暖化については、企業の省エネ対策の取り組み、次世代自動車、燃料電池などを紹介しています。東日本大震災以降は省エネ、次世代エネルギーへの関心の高まりがこのフェアにおいても感じられ、今回は湘南エコウェーブイベントに続いて水素自動車を展示し、横浜で実証実験を行っているコンパクトEVの試乗会も実施したところ、企業の担当者への質問が多く、試乗会も盛況でした。また、中学生による、学校における環境への取り組みの発表では、地球温暖化の厳しい現状の紹介と、その防止のために自分たちが行っている取り組みが紹介されました。環境への配慮の大切さと今ある環境を次の時代にも残していくことの大切さの訴えは、来場された方々に確実に伝わったのではないのでしょうか。

横浜で発表された地球温暖化の状況は非常に厳しいもので、地球温暖化が進行している状況において、対策を実行したからといってすぐに効果が現れるものでもありません。しかし、何もしないままであれば次世代や子孫につけを残すこととなります。本市も基礎自治体として市民、事業者との距離の近さを生かした施策を確実に実施してまいります。

環境フェアにおきましても、次代を担うみなさんがたくさん訪れていただけるような企画を開催し、催しや運営にも参加して頂けるように取り組んでまいります。



小型電気自動車「チョイモビ」



スクールエコアクション展示・発表会



企業のエコ活動コーナー



おもしろ環境教室



エコ体験コーナー



市民活動団体等コーナー



中央公園



次世代自動車・試乗体験



屋外エコステージ



ソーラークッカー



エコ☆マルシェコーナー



「スクールエコアクション」(学校版 EMS)

第 2 回発表会の概要と感想

茅ヶ崎市立 北陽中学校

所在地:茅ヶ崎市下寺尾 1660
在校生:1年生 4 学級 146 名、2 年生 4 学級 135 名、3 年生 4 学級 130 名
特別支援学級 8 名 計 419 名

■ 環境活動の概要

校外での活動は 1 年生の春に行われる「自然観察会」があります。自然観察会では、学区にある里山公園に行き、里山にある植物や生物の生態系をよりよく知り、茅ヶ崎北部の自然の豊かさと大切さを知るために行っています。1 年生の総合的な学習の時間では、その観察会をきっかけとして、1 年を通して環境について調べ、学習を進めます。



北陽中学校の環境活動は生徒会本部役員や委員会を中心に取り組み、全校生徒へ呼びかけています。生徒会からは「エコキャップ回収」や「プルタブ回収」、図書委員会では「インクカートリッジやベルマークの回収」、美化委員会では「緑の募金」等を行っています。他にも PTA の方々にも協力を頂き、制服のリサイクルを行っています。

■ 発表を終えての感想

スクールエコアクションの発表を行うにあたり、子どもたちと一緒にエコ活動について考える良い機会となりました。背伸びをせず、できることからコツコツと活動することが大きな力になることを改めて認識することができました。また、萩園中学校の発表や各展示を見て、北陽中学校で取り組めるものはないかと子どもたちが一生懸命考える姿に成長を感じることができました。今後も身近なエコ活動を学校全体で考えたいと思います。

(記事提供:山本隆博先生)

茅ヶ崎市立 萩園中学校

所在地:茅ヶ崎市萩園 2425
在校生:1年生 4 学級 142 名、2 年生 4 学級 138 名、3 年生 4 学級 151 名 計 431 名

■ 環境活動の概要

萩園中学校生徒会は、①緑のカーテン作り②エコキャップ回収③あいさつ運動という 3 つを柱として活動しています。緑のカーテンはこれまで試行錯誤を重ねながら今年で 5 年目になりました。本校の特徴は、生徒と地域ボランティアとの協働だと思えます。また、エコキャップ回収も長年継続して行っており、校内の生徒に呼びかけるだけでなく、公民館などにも回収箱を設置したり、地域のお祭りでブースを出すなどやはり地域とのつながりが欠かせません。あいさつ運動はエコに直結はしませ



んが、困ったときに互いに声がかけられたり、日頃から注意し合える人間関係作りが大事だと思い力を入れています。このような活動を通して、私たちが環境について知り、そこから一歩進んで一人ひとりが今、何をすべきかを考えていくことが大切なのだと思います。一人の力は小さくても、みんなが集まれば大きな力になる、私たちはそう信じています。

■ 発表を終えての感想

今回の発表を通して、日頃自分たちが行っている活動の意味を再確認することができました。また、北陽中学校の実践を伺い、萩園中学校で行っていない活動(プルタブ回収→車いすの寄付)に生徒自らが興味を持ち、もっと活発に活動したいという思いを強くしたようです。その後、学校に戻り、全校集会で本校の生徒に向けてこの発表を行いました。少しずつでも環境への取り組みを広げていきたいです。最後に、生徒会本部役員も環境に真剣に向き合う機会を与えていただいたことに感謝していました。

(記事提供:飯窪文子先生)

「ちがさき環境フェア2014」に参加して

～環境フェア参加団体様からの感想及び環境への取り組みの紹介～

□ 文教大学湘南校舎吹奏楽部

文教大学湘南校舎吹奏楽部 渉外係 砂土居裕貴

私たち文教大学湘南校舎吹奏楽部は22人の部員で活動しています。環境フェアをはじめ、大岡越前祭、レインボーフェスティバルなどのイベントでの演奏、コンクールなどの大会に出場しています。

☆ ☆ ☆ ☆

今回、環境月間のイベントの一つであるちがさき環境フェア2014に参加して、とてもいい経験ができたと思います。私は今年で2回目の出場となりましたが、午前中の演奏では聴いてくださったお客様に喜んでいただけて、とてもうれしかったです。風が少し強かったため、些細なアクシデントはありましたが、いい演奏であったと思います。来年度の環境フェアでも、お客様が楽しめる演奏、演出、パフォーマンスができると思います。午後からの各ブースでのお手伝いでは、部員一同より小さな子供たちと触れ合えて楽しかったとの感想がありました。



ちがさき環境フェアでは年齢を問わずに楽しめる要素が多くあります。この先も、年齢を問わずに楽しめる内容を多く取り入れることが大切だと思います。アトラクションの演奏なども曲目を工夫したりして、できるだけ年齢を問わないようにできたらいいと思います。

□ かながわ環境カウンセラー協議会(KECA)湘南支部

支部長 西村 堅一郎

環境カウンセラーとは、「環境保全に関する豊富な実績や経験を有し、環境保全に取り組む市民団体や事業者に対して、きめ細かい助言や指導・解説できる人材」として環境省に登録している人です。

かながわ環境カウンセラー協議会(KECA)は環境カウンセラーを主体として、県内で環境活動を行っている個人、団体、事業者で構成されています。活動は事業者向けの環境経営、エコアクション21、省エネなどの指導・助言を行っています。市民向けには、学校・市民団体への出前授業、市民活動に対する助言・指導を行っています。ちがさき環境フェアには2006年から毎年参加させていただいています。

今年のちがさき環境フェアでは、分庁舎会場においてパネル展示とワークショップを行いました。パネル展示には3つのクイズを用意しました。その1つは「家庭で使っている電気製品で使用電力量が一番多いのは何でしょう」というものです。東日本大震災前のデータではエアコンでしたが、震災後は冷蔵庫となっています。ワークショップは「キッチンが実験室」という、色々な反応で食品の色が変わるのを観察して、なぜ色が変わるかを解説するものです。このブースでは次から次へと参加希望者が来てくれて、3名の指導者は大忙しで、アンケートでもほとんどのお子さんが面白かったと回答してくれました。

事業者向けのKECAのパンフレットや環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション21」の説明書、環境経営の無料セミナーの案内などを用意したのですが、展示場の来場者が子どもと保護者が多かったためか、これらの資料にはあまり興味を持ってもらえなかったのが残念でした。



ワークショップ「キッチンが実験室」

□ エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議

三好 淳子 記

当会が発足して10年が経ち、環境フェアにも発足当初から参加しています。

今年、市の広報番組ハーモニアス茅ヶ崎の特集として「マイバッグでお買い物」が取り上げられました。この番組のダイジェスト版を会場で流して貰い、少しでも活動が認知できる機会を得ました。また、数年前には当会のマスコットの名称を市内の小中学校から募り、環境フェアで表彰をしました。当時の赤羽根中学校の男子生徒さんが、エコとカンガルーを合わせて「エコル」と名付けてくれました。

他には環境月間と連動して、全市内で「エコウィーク」を行いました。これは、いつもマイバッグの持参を心がけて貰っているのですが、環境フェアの日を最終日として、1週間マイバッグ持参を強化しようというものでした。

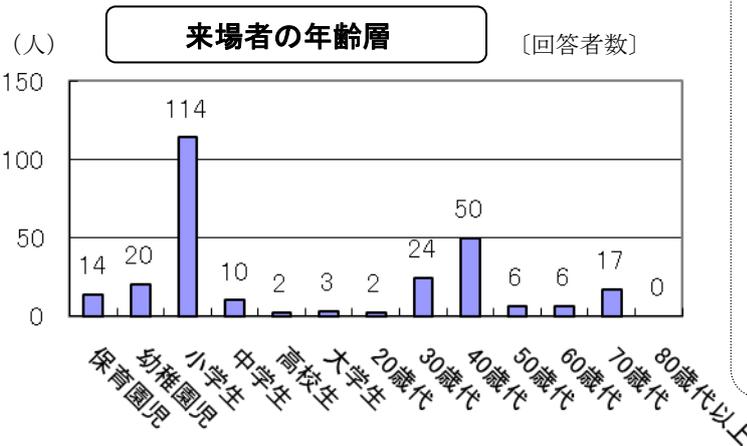
パネル展示では、エコ傘マイバッグの展示や毎年行っている小学校4年生と中学校2年生を対象とした「お買い物アンケート」の集計を展示しました。

私達の活動を通じて、少しでもエコな茅ヶ崎になるよう努力したいと思っています。



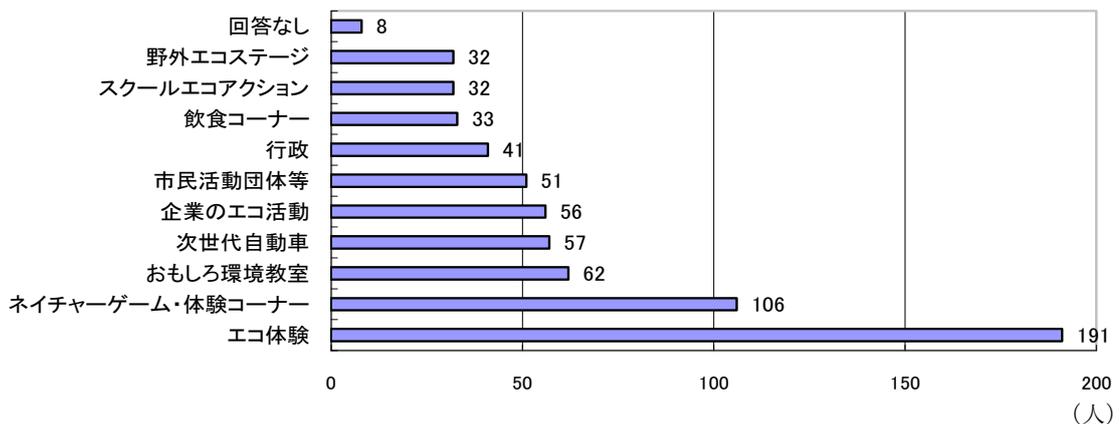
マイバッグ推進会議の展示

環境フェア来場者アンケート集計の結果



- ・総来場者数は、約2,000名(推定)で、ほぼ昨年度と同数であった。
- ・来場者の年代層では、小学生が全体の42%で、その父兄の30・40歳代が27%を占めている。
- ・中学生層(4%)が期待していたよりも少なかった。
- ・印象に残ったイベント・展示としては、エコ体験やネイチャーゲーム等参加者自身が体験しながら環境を学ぶイベントに興味を示されている。

印象に残ったイベント・展示



みどりの対話集会 ～蘇るみどり～

日 時:平成 26 年 6 月 7 日(土)13:30～16:30
場 所:市役所分庁舎 6 階コミュニティホール

主催者:市民と市長の対話集会をすすめる会 青木洋子

第 6 回「みどりの対話集会」が、環境フェアの一環として開催された。この集会は、自然環境の視点から市長と市民の意見交換の場として定着してきており、今回も市民、学識者、行政職員等、約 70 名の大勢の参加者を得た。

今回は「蘇るみどり」をテーマにして、第 1 部ではみどりを守るために必要なルールについて先進市の事例に学ぶことを主眼にして、明治大学の倉本宣先生、横須賀市自然環境共生課の村田課長、茅ヶ崎市景観みどり課の白鳥主幹にご講演を頂いた。

倉本先生は、みどりの多面的な機能と多様な価値観について、川崎市の生田緑地や黒川農場を例に挙げられて、「みどりは場所によっても異なり、緑地の機能も多面的で、市民の意見も多様であるので、重要なことは合意形成であり、そのためには科学も必要となり、考えていることや感じていることを共有し、違いを知ったうえで、一緒に活動する方法を考えることが大切」と話され、また、異なる価値観をつなげ、一緒に活動する中で価値観の相互作用を引き出してくれるコーディネーターの重要性についても言及された。

村田課長からは、「みどりの基本条例」の施行とそれに伴う制度や施策および庁内組織機構改革の話があった。海に囲まれ、丘陵や斜面などの豊かなみどりに恵まれた横須賀市でも、年々その荒廃が進み、同時に人口の減少に対する危機感が高まっている。そのような中で、平成 23 年 4 月に「みどりの基本条例」が施行され、緑被率の問題をはじめ、みどりに関する補助金、緑地保全に関する制度や施策等の検討が行われたことについて、わかりやすいパンフレットを基に説明があり、茅ヶ崎市にとっても参考になるものだった。また、施策を進める上で重要な庁内の組織機構改革により、自然環境と公園建設・管理等を一括して行えるようになったこと、そして、みどりは守るだけでなく、多くの市民にみどりの良さを実感してもらうために行政自らツアーを組むなど、積極的な普及活動が展開されていることも印象に残った。

白鳥主幹からは、茅ヶ崎市の緑被率や保存樹林指定の現状、みどりの将来像、施策の方針、庁内体制、条例策定への考え方等の話があった。

第 2 部は、市長、パネリストの方々と会場との意見交換会を行った。その中で、横須賀市の補助金制度やタイ



リスについての質問、茅ヶ崎ゴルフ場存続問題についての要望、東海岸南 2 丁目の公園設置の要望などが出された。また、街路樹の問題が議論される中、市長から、「茅ヶ崎市の道路が狭く、街路樹が植えられない所が多い上に、街路樹が嫌いな市民もいる。いろいろな価値観がある中、住民と話し合っていく必要がある。みどりが少ない街になってしまったのも、住民の合意の結果」との、発言があった。しかしこの問題は、果たして市民の責任なのだろうか。確かに市民の要求が強く、エゴにつながる事例もあるかもしれない。だが、倉本先生の講演でも言われたように、市民の多様な価値観

は当たり前で、それを調整し統括していくことが行政の仕事ではないだろうか。その職務を担保するのが条例であり、施策であるはずである。環境基本条例、環境基本計画、みどりの基本計画等、市の条例や計画は、その策定において、多くの時間や労力、貴重な税金を費やし、議決を経て合意形成されるのはいったい何のためなのか。

市としての基本姿勢を示し市民に理解を求める努力は簡単ではないだろうが、その努力を怠らないことがまちを守っていくことにつながるのではないだろうか。

「みどりの対話集会」に意義があるとすれば、行政と市民が各々の主張を訴えるだけでなく、お互いを理解し、信頼しあえる関係づくりの場にしていくことではないかと思う。



パネリストからの報告

《ちがさき環境フェア 2014 関連イベントを実施して》

■ 100年の森をめざして—相模川河畔林の除草及び保全用看板・柵の設置—

相模川の河畔林を育てる会 小山 稔 記

相模川の河畔林を育てる会は、6月8日(日)の午前、標記の保全作業を行なった。参加者は会員8名のほか一般参加の市民や市職員で、総勢11名であった。

前日からの大雨で実施が危ぶまれていたが、当日は穏やかでちょうど作業に適した曇り日となった。今回は、貴重な植物であるタコノアシやオトギリソウの周辺の除草と保全作業である。まず、タコノアシとオトギリソウの生えている場所の除草を行なった。オトギリソウは既に背が高く成長しており、見分けることが容易だったが、タコノアシはまだ小さくて、草の中に隠れており、周囲の草を注意深く刈り取って見つけた。先日の事前調査の時には見つからなかった株も、数株見つけることができた。



蔵前代表が提供してくれた立て看板に、「この囲いの中は『オトギリソウ』と『タコノアシ』の保全地域です」というメッセージを貼りつけ、穴掘り機で穴を開け、深く杭を埋めて看板を設置した。今後はこの要領で河畔林の説明やタコノアシ、オトギリソウ、オドリコソウ、トモエソウなど貴重植物の保全場所に看板を取り付ける予定であり、また、貴重な植物を守るため、看板の周囲に細い綱で囲った柵も設ける予定。今回、杭打、綱張など役割分担をして上手に柵も出来上がった。ここを通る人たちが大切にしてくれることを願っている。

タコノアシやオトギリソウは何か所か生育している場所があり、日頃写真撮影に訪れる近隣の会員の方が管理道路わきにもタコノアシがあることを教えてくれた。自然環境の保全には近隣の方との連携がいかに大切かを感じた瞬間であった。看板や柵の設置を終えて、途中、水分と甘いものを補給してから、オオブタクサを抜く作業も少し行なった。オオブタクサは今のうちに除草したいものである。

今回は、環境月間の一環としての定例会だったので、会員以外の方も参加していただき、楽しく作業ができた。8月に開催される環境市民講座にもたくさんの人が参加して頂けることを願っている。

■ 湘南タゲリ米の里自然観察会

三翠会 樋口 公平 記

6月21日(土)9時から12時30分まで、香川駅から小出川を歩き、湘南タゲリ米の水田地帯を巡るコースで行いました。

まずは、小出川に出る手前の屋敷林を観察。ここではアオサギが繁殖していました。林の上にはいくつかの巣があり、多くの親を待つ巣立ち間近の幼鳥がいました。そして餌をねだる大きな声が響きます。子育ての影響がないように離れたところから観察しました。神奈川県内ではサギ類の集団繁殖地(コロニー)は減っていて、このような場所は貴重となっています。小出川沿いを下りながら、カワウや上空に国の準絶滅危惧種であるミサゴを観察。そして大曲橋に到着。ここでは三翠会スタッフが川の中に立って参加者を待っていました。皆さんが集まったので、川に投網を投げました。一瞬でパッと開き水面に波紋の輪ができ、引き上げるとたくさんの稚魚たちが入っていました。フナやコイ、オイカワなどが取れ、皆さんに見ていただきました。これらの魚たちを餌としてサギ類、カワウなどが暮らしていることを感じていただきました。

水が入ったタゲリ米の水田では、たくさんのミジンコ、フナやナマズの稚魚を見て頂きました。これらの稚魚は、魚道を遡上した成魚たちが産卵した卵が孵化したものです。定置網を仕掛けて魚道の遡上調査を皆さんに見て頂きました。また中干し時にも魚が避難できるビオトープも見えていただきました。三翠会ではタゲリ米の仕組みから農家と市民がつながり、自然を再生する仕組みを増やしています。また次回の観察会に向けて頑張りたいと思います。



環境イベントのおしらせ

「環境市民講座」

◇「100年の森をめざして」

～相模川の河畔林から樹木の再生を考える～

日時:8月10日(日)13:30～16:30

場所:市役所分庁舎6階コミュニティホール

内容:相模川の河畔林のあり方と茅ヶ崎の樹林地の保全などについて講師からお話を伺う。

講師:横浜国立大学名誉教授・横浜市立大学特任教授
藤原 一絵 氏
国土交通省京浜河川事務所・相模出張所所長
秋元 義彦 氏

主催:茅ヶ崎の自然環境を考える会・相模川の河畔林を育てる会

問合せ:茅ヶ崎市環境政策課(0467-82-1111)



◇「海からの宝物を探そう！」～ビーチコーミング～

日時:8月16日(土)7:00～9:00

集合場所:サザンビーチ(モニュメントC)、解散場所:市営柳島キャンプ場

内容:浜辺のごみを拾いながら、気に入った漂着物を拾い集め、海岸や自然について考える。

持ち物:帽子、手袋、水筒、手提げ袋(数枚)、歩きやすい靴・服など

定員:20名(先着順)申し込み:8月1日(金)～14日(木)

主催:自然環境部会 問合せ:茅ヶ崎市環境政策課(0467-82-1111)



◇「新江ノ島水族館見学と楽しい環境学習」～地球温暖化と海の生き物たち～

日時:8月22日(金)8:15～15:30

場所:新江ノ島水族館及び分庁舎5階A会議室

参加者募集:市内小学校4年生～6年生(申込期間:8月1日(金)～8月15日(金) 人数:先着24名)

保護者で見学希望の方は一緒に申し込んでください。(但し、大人は公共交通機関をご利用願います)

費用:見学料金(団体割引)小学生900円、大人1,890円、弁当・飲み物等は各自持参

主催:環境まちづくり部会 申込・問合せ:茅ヶ崎市環境政策課(0467-82-1111)

当日のスケジュール

第1部 新江ノ島水族館の見学 集合:8:15分庁舎玄関前、8:30マイクロバスにて出発

見学時間 9:00～12:00 見学終了後、小学生はマイクロバスにて市役所に戻る。

(昼食・休憩) 12:45～13:30 場所:分庁舎5階A会議室

第2部 夏休み自由研究にも役立つ楽しい環境学習 13:30～15:00

講師 環境カウンセラー・エコワーク会員 小山 稔氏

内容 クイズやスライド写真、実物を見ながら一緒に学習する。



海草

(アマモ)

- ・地球温暖化って？
- ・地球温暖化はどうして起こるの？
- ・地球温暖化は海の生き物たちにどんな影響があるの？
- ・体の中で二酸化炭素と水と太陽光から有機物をつくること
ができる生き物はどんなもの？
- ・海の生き物たちは、地球温暖化防止に役立っているの？



東京湾のサンゴ

編集 後記

毎年6月、環境月間に開催されている環境啓発イベント「ちがさき環境フェア2014」は、梅雨の合間の晴天に恵まれ、テーマ:「未来へつなごう! 環境にやさしいまち」に相応しく、次世代を担う子供たちやその保護者の方たちで大変盛況であった。中学生のスクールエコアクションの発表では、子どもたちの環境への熱い思いや地道な活動を知ることができた。世界的な温暖化と異常気象の増大や生物多様性の喪失が進む中、私たちは子どもたちの環境活動の手本となるように、身近な環境問題に真摯に取り組んでいくことが大切ではないでしょうか。(M.O)